

# 2026 年度 産学官・会員校代表者等交流会

テーマ

「さらなる産学官の連携を目指して」

日 時 2026 年 12 月 11 日 (金)  
14 : 30 ~ 17 : 00

会 場 アルカディア市ヶ谷 6 階 伊吹  
(ウェビナー同時配信)

ご参加のお申し込みはこちらから➡



一般財団法人 全国大学実務教育協会  
Japan Association of University and College for Business Education

## 【開催主旨】

大学は、教育研究の成果を広く社会に提供し社会の発展に寄与することが法律で求められています。教育力、研究力と並んで社会貢献力は、とくに地方創生に取り組む多くの国公立大学の重要な機能となっていることは言うまでもありません。これまで大学の社会貢献は、地域連携や産学官あるいは産学官金といった言葉で語られることが多く見られましたが、近年では新たに「大社接続」といった用語も使われるようになりました。

文部科学省では、大学・研究機関、産業界、行政が相互に連携し、知の創出と社会実装を一体的に進める「産学官連携」を重要な政策として推進しています。本年度の産学官・会員校代表者等交流会は、昨年度に引き続きその最新の政策動向と実践の最前線を共有し、今後の産学官連携の在り方を多角的に考えることを目的として開催いたします。

本シンポジウムでは、産学官それぞれの立場を代表する3名の講師による基調講演を予定しています。

文部科学省からは、産学官連携に関する国の政策動向や今後の方向性についてご講演いただきます。企業の経営者からは、研究成果の社会実装やオープンイノベーションの視点から、産学官連携に期待される役割や実践的な取組についてお話ししていただきます。また、大学からは、高等教育機関における研究・人材育成の立場から、実践事例を交えながら産学官連携の意義と将来像についてご講演いただきます。

本シンポジウムでは、政策、産業、大学という異なる視点からの基調講演を通じて、産学官連携の可能性と課題を俯瞰的に捉え、今後の取組に活かすための示唆を得られる機会となります。

また、私どもは本協会の事業推進の基盤となる産学官の関係性構築に継続して取組み、多方面から率直な意見交換をしていただき、そのご意見を事業に活かす方法を開発していきたいと考えております。

産学官連携に携わる皆様をはじめ、関心をお持ちの多くの方々のご参加をお待ちしております。

## 【プログラム】

<b>テーマ：「さらなる産学官の連携を目指して」</b>		
日時：2026年12月11日（金） 14：30～17：00		
会場：アルカディア市ヶ谷 6階 伊吹（ウェビナー同時配信）		
司会 福井 洋子（当協会理事 学校法人大手前学園 副理事長、大手前短期大学 学長）		
14：30	開会 会長挨拶	清水 一彦 当協会代表理事・会長、松本大学 学長 松本大学松商短期大学部 学長
◆基調講演①（30分）		
14：40	「文部科学省における産学官連携政策の現状と展望」	石橋 晶（いしばし あき）氏（予定） 文部科学省高等教育局大学振興課長
◆基調講演②（30分）		
15：10	「企業経営の視点から見る大学教育のあり方」	遠山 秀徳（とやま ひでのり）氏 元シダックス(株)代表取締役副社長 (株)洋菓子のヒロタ取締役会長 T-コンサル合同会社代表取締役社長
休憩 10分間		
◆基調講演③（30分）		
15：50	「教職協働を基盤とした大学・企業連携による短大改革」	蓑部 初（みのべ はじめ）氏 学校法人宮崎学園 宮崎国際大学・宮崎学園短期大学 総務部長
◎全体協議（40分）		
16：20	産・官・学の連携について ・講演の感想、講演者への質問、ご提案など	
17：00	閉会	

☆懇親会☆ 17:00～18:30 （会場）7階 雲鳥

参加費：無料

# 〔講 演〕

## 基調講演①

文部科学省 高等教育局大学振興課  
課長 石橋 晶 氏 (予定)

「文部科学省における産学官連携政策の現状と展望」

文部科学省より、産学官連携をめぐる最新の政策動向や施策の方向性について解説します。研究成果の社会実装や人材育成を軸に、今後の産学官連携に期待される役割と課題を展望します。

---

## 基調講演②

元シダックス (株) 取締役副社長  
(株)洋菓子のヒロタ 取締役会長  
T-コンサル合同会社 代表取締役社長  
遠山 秀徳 氏

「企業経営の視点から見る大学教育のあり方」

企業経営者の立場から、大学・行政と連携する意義や今後求められる連携のあり方及び現代社会における大学生の学びや大学教育のあり方について提案していただく。

---

## 基調講演③

学校法人宮崎学園  
宮崎国際大学・宮崎学園短期大学 総務部長  
藪部 初氏

「教職協働を基盤とした大学・企業連携による短大改革」

大学職員の立場から、産学官連携の意義と将来像を語っていただきます。人材育成や地域・産業との連携を通じた大学の役割を展望します。

## 協会の発足と使命

協会が発足した1973年のころ、まだ実務教育のことが話題にもならなかった当時、社会で活躍できる実務の素養と人間力を備えた能力開発に着目し、大学・短期大学における秘書教育課程を開発して、資格を授与することになりました。こうして本協会前身の全国短期大学秘書教育協会が始まりました。続いて、情報処理教育課程、ビジネス実務教育課程などを開発し、資格を授与してきました。

## 協会の事業方針

- 本協会は、実務教育・キャリア教育はどうあるべきかを問い続けその実践をリードし、もって大学・短期大学教育の質的転換に貢献します。
- 本協会は、対話を通して産学官民との連携を密にし、社会の変化に対応し、社会を創る人材育成に取組みます。
- 本協会は、実務教育・キャリア教育に関わる認定事業の質保証を図るために導入した評価制度を推進します。
- 本協会は、大学・短期大学における能動的学修をリードする教員及び実務家教員の教育力養成並びに教学マネジメント養成を推進します。

その後、協会の名称を全国大学実務教育協会と変更し、時代の要請や社会のニーズを捉えて、実務教育に関わる数多くの教育課程を開発し、資格を授与することとなりました。以来、初期のめざしてきた方向、つまり社会的に役立つ人間力を備えた実務教育の資格授与、実務教育研究の推進、大学・短期大学における実務教育の在り方を追求することを本協会の使命として堅持しています。

## 本協会が捉える「実務力」とは

どのような職業に就いて働く場合でも私たちは様々な実務を担って責任を果たしています。実務力とは、特定の知識・技能だけを意味するのではなく、自分の持てる力を活かして結果を出す人間力を含む総合的実践力が実務力の中核であると捉えています。

## 協会のめざす実務教育とは

本協会の実務教育とは、「実社会を知り、自分を知る」を基軸におく人間力をベースに、実務を推進する総合的実践力を基本において育成をはかるものです。この幅広い実務実践力は失敗や成功を伴う体験学修を重ね、自ら獲得していくものであると捉えて、本協会の種々の資格教育課程を提案しています。

## 資格教育課程の質保証方法とは

一人ひとりの資格教育課程の修了者の質保証をはかるには、大学における単位認定結果(GPA等)に加えて、学修者自身による資格到達目標達成度評価結果(学びの自己評価と継続課題等)の明確化が求められます。この質保証の考え方のもと、2023年度より本協会は、資格到達目標達成度評価制度を導入し、新たな評価方法(協会独自のものまたは大学オリジナルなもの)を順次導入していきます。

## 社会が求める課題に対応する能力が修得できる当協会の資格

### データサイエンス・AI 実務パスポート

文部科学省の認定制度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(リテラシーレベル)の学修目標に沿って当協会が独自に設定した能力基準に基づいています。

- ・この資格を活かせる業務・作業時間を短縮したい、手順を簡素化したいなどの課題を解決するために、作業の流れや作業時間のデータを分析、解決して改善することができます。情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する能力が社会のために役立ちます。
- ・開発する能力・情報社会における情報の知識、情報社会において情報を収集・分析する基本技能、課題発見力・分析力・表現力と共有化の技能など

